

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月24日（木）午後7時00分～8時30分
場 所 有終南小学校 体育館
出席者 有終南小学校区住民 22名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 資料5ページの「将来の再編に向けて」で、校名、校歌、校章等の検討とあるが、学校の制服自体もどうするか検討するよう追加してほしい。有終南小学校は体操服で生活する場面が多く、長年体操服は変わらない素材で非常に夏に暑い生地である。長男は開成中学校に通っており、同様である。これを上庄の生徒に着てもらおうとなると、スクールバスかもしれないがかなり不快に思うだろう。これを機に学生服をどうすればいいのか計画見直しの検討に追加してほしい。計画が案で改訂の余地があるならそういったことも考慮してほしい。

市教委 そのとおりだと思う。資料で「校名、校歌等の検討」と、その中に「等」とあるようにさまざまなことを検討する必要があると思っている。10、15年後に検討される小学校と中学校の校数だが、大野市の今後50年、100年見通した時にほぼ最終形に近い形になると思っている。10年後にどういった社会になっているか見通せないが、さまざまな視点で検討する必要がある。

参加者 学校施設の老朽化対策の計画に着手するとあるが、私が有終南小学校3年生の時に、この校舎に来たのを覚えている。41年経過し、耐震工事やトイレの改修をしているが老朽化が進んでいる。再編しても、まだまだその後も使っていかなければいけない。今の時代、建て替えは考えられない。老朽化の対策もお金はかかるが、再編することで国からの補助はあるのか。

もう1点、有終南小学校PTAの引継ぎ事項で、校庭の芝生化を前の会長から引き継いでいる。再編の学校校舎の工事に伴って、PTAではTO TOのサッカーくじの助成を活用し校庭の芝生化ができるよう進めているので、再編に絡めて実施してほしい。

市教委 再編に関する改修の補助は、文部科学省の補助がある。計画的に、特に再編先の学校を中心に、まずは必要な箇所の改修を行っていきたい。文部

科学省の補助を活用して改修したい。

参加者

老朽化対策で、学校の耐用年数は何年ぐらいを見込んでいるのか。長寿命化はどのくらいの規模で改修が必要になるのか。併せて、こういった工事期間中は、前の学校を活用することは考えなくていいのか。

市教委

耐用年数は、一般的には60年程度と言われている。一般的に長寿命化とは、ほぼ学校の躯体、骨組みを除いた全てを建て替えることを言う。現時点では、そこまでの改修は考えていない。まずは、学校のさまざまな不具合がある点について、児童生徒が過ごしやすくなる改修を考えている。

今回の再編では、長寿命化まで行うことは考えていない。ただ、次の段階の再編になると、学校数自体も何校になるか未定だが、その時には長寿命化するのか、あるいは学校を新築しないといけないのか、そういった議論が出る可能性がある。

耐用年数は60年程度と言われているが、建物ごとで若干状況が違っている。去年も全部の校舎の老朽化の検査をしている。そういう検査を行い建物の状況を把握しながら進めていきたい。

先ほどの芝生化の件で、芝生化そのものについては今後話し合いたいと思っているが、学校のこと、子どもをPTAの皆様が本当に、一生懸命考えている。そして、まちづくりの一環として、地域住民の皆様と一緒に支援していただいております、心から感謝申し上げます。

参加者

資料で公民館機能の強化と地域との連携とあるが、私は有終南小学校区で、小山小学校区の方に来ていただくことになるが、小山小学校区、上庄中学校区のことを考えると、子どもたちの地域とのつながりがとても大切になると思っている。公民館機能だが、現在も機能的に不十分な面があると思うが、将来、このような再編がされた場合には、小学校が地域に無くなって、公民館と地域とのつながりや連携などがどのようになるのか心配である。

現在の公民館機能より、再編時にはバージョンアップした公民館を考えている、あるいは職員の配置も考えているなど、そのようなことがあったら教えてほしい。

市教委

これまでも学校が無くなると地域が寂れると言われてきた。ある意味では一つの正論と思っている。しかし、必ずしもそうではないとも思っている。冒頭で教育長のあいさつの中で、今年度から教育委員会の中に未就学児、0歳児からの子どもを管轄するという大きな改革をしたと説明した。もう一つ、今回の機構改革の中で大きな目玉の一つとして、まさしく地域づくり部と名前を掲げて、地域のことに対して深く関わっていきこうという体制に変わっている。区長会に話をしている段階だが、その場所には市長

も行って一緒になって話をしている。まだ、スタートしたばかりだが、公民館はこれまで教育委員会の管轄であったものを地域づくり部の管轄にした。これまでも子どもからお年寄りまで集まる場所だったが、公民館そのものが教育委員会から独立して、地域づくりのためもう1度地域の核となるように努めている。本当に大きな課題だと思っている。人もいなくなって本当にできるのかということもあるが、改めて公民館を地域の核になるよう取り組んでいる。

子どもと地域を結びつけることは、学校が無くなったとしてもお祭りなどさまざまな行事がある。そこは地域の方も一緒になって、小山っ子だったら小山地区という地域性を大事にして、子どもを地域で育てることに協力をお願いしたい。

参加者

説明を聞いて分かりやすかった。有終南小学校区の子どもたちも地域の人もさほど変化は起きないということで、安心している。校区の見直しを行った時に、有終南小学校区の子どもたちはこれまでどおりの校区になるのか、児童数の振り分けによっては校区が変わるのかと、影響される子どもたちのことで不安です。その時に対応できる考え方はあるのか。

また、制服のことだが、ランドセルとナップランドがある。ランドセルは高価になってきて、市外に行って買う方、県外の祖父母がプレゼントされる方などがいるが、2、3年後に大野市はナップランドと決めれば、製作側も大野市用に作れて大野の児童に提供できる。そうすれば変な差別もなくなるし、金銭面でも楽になると思うので、その辺の考え方を教えてほしい。

市教委

校区を分けることは実は検討委員会でも話が出たが、これは将来的なことになる。この再編計画案では、小山小学校と有終南小学校が再編されると、再編によって有終南小学校区には小山小学校区が入ってきて、校区が広がる。そういった意味では、新しい校区では有終南小学校区はあまり変わらないのではなく、小山地区のことも一緒に学んでいく、そういった点では大きな変化となる。

ランドセルとナップランドだが、それだけでなく統合によってランドセル、ズック、体操服、制服、それらは校則かもしれない。小学校の校則を誰が決めるのかというと校長かもしれないが、十分にPTAと意見を交わして決めていくことだと思っている。統合をきっかけにさまざまなことの見直しが大事になる。ぜひ、そういった機会になると良いと思っている。

参加者

児童館の話が出ていないが、有終南小学校区は児童館に行っているが、小山小学校は幼稚園跡を使っている。再編された後は、それを生かしていくのかどうか。

市教委 児童館と村部にある放課後子ども教室がある。児童館は厚生労働省、放課後子ども教室は文部科学省の管轄になっている。大野市では4月から全部教育委員会の管轄になって、一体的に考えることができる。今のところは、児童館も放課後子ども教室も枠組みを変えるつもりはない。今の制度でも小山の子が南校に来ても、児童館では自由来館といった制度で児童館を使っていたら良いと思っている。今のところ大きく変えることは考えていない。

参加者 私は前年度の検討委員会に参加した。検討委員会は区長会2名、保育園の保護者3名、小学校の保護者3名、学校の先生2名など、全15名で話し合って計画案を策定した。本当に教育委員会の方も頭を悩ませるぐらい激しい議論をしたが、この計画案は15名で話し合った結果である。前回の1校2校案が出て、それが市民の中で紛糾して市長選があって、ここにたどり着いた。私が今日ここに来たのは、実際に検討委員会を経て出てきた小学校再編計画案を保護者の方がどう思っているのか聞きたくて参加した。

例えば前回の1校2校案に比べてここが良くなったとか、ここを詰めた方が良いなどあると思うので教えてほしい。また、これまで教育委員会が説明会に回って、統合される、学校が無くなる方を回ってきて、実際教育委員会としてどういった反応を受けているのか。

市教委 教育委員会の受け止めとしては、「さあ、次どうしよう」という話が展開されていると考えている。特に保護者は、学用品の補助や体操服をそろえるのかそろえないのか、スクールバスを利用しての登下校や子どもの放課後の居場所のことなどを心配している。それをどうすれば良いのかという話で進んでいる。

中学校の再編では、保護者は小学校の5、6年生から小学校同士の交流をして中学校に行きたいという意見があり、それについて「なるほど」と思った。そして、やはり登下校のスクールバスの運行が本当に大丈夫かななどの意見が多かった。

体操服をそろえることもだが、私は説明会では学校の大小ではなくて、1対1の再編だとずっと言ってきた。例を挙げれば、別に体操服も含めて全部替えなくても良く、今までの体操服を使いながら小さくなったら替えるということもある。互いを認め合える学校であってほしいという話もしてきた。

先ほど、有終南小学校と小山小学校の統合では有終南小学校の児童はあまり変わらないという意識、開成中学校と上庄中学校の統合では開成中学校の生徒はあまり変わらないという意識にならないようにしたい。

開成中学校も新生開成中学校である。有終南小学校も新生有終南小学校である。小山小学校の児童が入ることによって、有終南小学校もさまざまに検討しなければならないことがある。今まで続けてきたことを、ここでもう一度見直してみる。開成中学校でも、もう一度見直してみる、そういったことを考えるにはとてもいいチャンスだと、これまで10回を超えてきた計画（案）の説明会で、そういうことを考えながら、訴えながら、保護者と話しながら、とても前向きな話をしてくれている。

参加者

有終南小学校の児童の保護者であるが、皆さんのお話を聞いてはっとした。親としてどう学校に関わるのか、学校の中のこと、帰ってからのことなどいろいろと考えているが、逆の立場に立って、小山小学校に有終南小学校の児童が通うことを考えた場合、教育長の話聞いてさまざまにはっとした。その時に具体的に各家庭で問題が出てくると思うが、子どもたちの視点で見た場合には、小山小学校の児童が来年の4月から南校で勉強するとなった時に、子どもたちの中には楽しみにする子も出てくると思う。保育園で一緒だった子が小学校で分かれて、偶然公園で会ったり買い物で会ったりした時に、今、上庄小学校や小山小学校に行っている児童が、また一緒になって遊べるようになるかなと、家で子どもたちと話をしている。

小山小学校が学校再編されることで心配することもあるが、子どもたちからすれば結構楽しみの方が多く、得るものがすごく多いと思う。子どもたちは親の心配とは全然関係なく、その日その日を一生懸命生きているだけかもしれないが、ここで子どもたちの視点に立って、自分たちが30年前に感じていた視点に立ってということを考えるいいタイミングだと思った。

学校再編は数年後になるが、まだ私も下の子がいるので、ちょうど子どもたちの環境が大きく変わっていく時期に当てはまるので、そういったことを見つけるいい機会になると感じた。

市教委

今、ライブで映像を流しているのですが、それを見られて聞かれた小山地区の保護者の方や他の学校の保護者の方は、とても喜んでいらっしゃると思う。動かなければいけない学校の保護者の方は、本当に心配している。受け入れ側も、温かく細部に渡って準備していただけるとありがたい。

子どもたちは楽しみにしている部分もあるのではないかと。スポーツ少年団と一緒にやっている子どももいる。保護者には、心配はしても心配しすぎることはやめようと言っている。新しい学校に通って、新しい友達、新しい大人と上手くやっていくことも、子どもたちにとってはとても大切なことである。

資料3ページの「慎重に丁寧に着実に進める」の中で、私はあえて「希

望と期待が膨らむ環境づくりに向け」と万感の思いを込めて一文を入れた。これは、この再編が決してマイナスや心配ばかりではない。そこはしっかりと対応させていただく。新しい世界や新しい友達、そういう所に子どもたちが期待を持って夢を持てるように、大人は準備しなければいけないと強く思っている。

参加者 感想になるが、長男が開成中学校の1年になったが、今は小学5、6年生で英語の教育を行っていると聞いているが、中学校1年のタイミングでアルファベット小文字のuとvが書き分けられない子がいたり、Sが書けない子がいるなど、小学校の時の英語教育でアルファベットの太文字、小文字ぐらいは完璧に書けるぐらいになった方が良いのではないか。

市教委 小学校でも中学校でも英語を楽しく勉強してほしい。小学校の内にアルファベットを書けるぐらい覚える、日本語では小学1年でひらがなを書けるぐらいということだと思うが、英語ではあまりこだわらずに小学校時代を過ごしてもらえばいいと思っている。

陽明中学校での授業を見たが、2クラスを3つに分けて、英語が得意な生徒、少し得意じゃない生徒、その中間の生徒に分けて3コースで授業を行っていた。それぞれのコースで生徒は楽しく授業を受けていた。今の英語の指導は優れており、過去のとは比較にならない。皆さんも一度授業を見に行かれると、そのように思われるのではないか。

参加者 この間、真名川で環境・水循環課が行っていた生物調査があつて参加した。川のワンドにいる魚を見たりライフジャケットを着て遊んだり、一生懸命子どもは楽しんでいるが、肝心な真名川のごみを拾うという意識が欠如していると思った。ここに書かれているように地域の関係性や美しい大野市を後世に残すことは、子どもたちへの教育の一環だと思っている。いくら魚がいて楽しい、川の水が冷たいと遊んでいても、横に流れていくペットボトルをほったらかしにしているのは、違うのではないかと考えている。

市教委 子どもの肩を持つ訳ではないが、この学校の校長をしていた時に、春になると子どもたちを連れて、大通りの道でごみ拾いをして歩いていた。何のごみが一番多いかと言うとたばこの吸い殻であった。子どもたちが、大人たちが捨てたたばこの吸い殻を拾って歩く。これが、雪が解けて見えてきた事実であり、大人自身が襟を正さなければいけないことだと思った。それを子どもたちに、一緒になって伝えていきたいと思った。

参加者 私の子どもは義務教育も終わって高等学校に行っているが、この計画がどうなるか気になっていた。かつての小学校2校、中学校1校の時の体制では、市民がけんけんがくがくの議論になっていた。私も今の体制の再編

計画については新聞で見るとしか方法がなかったが、今日はどうなるのかと思ひ参加した。計画案を見る限り、非常に練った計画案だと思っている。計画を作った松木先生の考え方も十分にこの計画に含まれていると思ひいて、安心している。

ぜひ、大変な時期だが、学校再編は大野だけでなく県下全般で、これだけ少子高齢化になると避けて通れない問題である。行政の人は大変だが、より良い教育環境を作っていってほしい。

市教委

今言われたように歴史があつて、今だと思っている。私はそれを引き継がせていただき、どうにか次にバトンをとる思いである。本当に今の温かい言葉を、過去に頑張った皆さんにも聞いていただきたいと思つた。

私は、このような話し合いは全然辛い。よく体に気を付けてと言われるが、前回の41回の意見交換会の時も、それほど辛くなかつた。なぜならば、自分を育ててもらつた大野にどのように恩返しができるのかということ、また、学校再編の議論を通してこの大野市の皆で大野市の将来のことを語り合っていると思ひているからである。そして、大野の未来を作っていこうと皆で集まっていると思ひている。とても良い機会を与えてもらっていると、心から感謝している。

④閉会のあいさつ（事務局長）